

# ネギベと病防除体系の確立

農業研究部

## 1. 研究の背景

ネギベと病は白ネギの病害で、特に春季に発生が多く、効果的な防除対策が求められていました。病害虫対策チームでは平成30年度からネギベと病に有効な薬剤の探索及び効果的な散布時期の検討を行いました。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

豊後高田市で2つの作型について、保護殺菌剤マンゼブを含む農薬を用いたべと病防除体系を試験し、効果の高いべと病防除体系が確立できました。

試験Ⅰ（12月上旬定植、5月下旬収穫の作型）

内容：12月に1回、3月に2回マンゼブを含む農薬を散布(表1, 3)

結果：べと病の初発は3月6日で、5月7日の発病株率は慣行区で22.7%、試験区で0.7%となり高い防除効果を確認しました(図1)。

試験Ⅱ（1月中旬定植、6月下旬収穫の作型）

内容：2～4月に月1回、マンゼブを含む農薬を散布(表2, 3)

結果：べと病の初発は4月3日で、5月28日の発病株率は慣行区で91.3%、試験区で4.7%となり高い防除効果を確認しました(図2)。

べと病の発病は気象の影響が大きく、適期防除が難しいですが、発病前にマンゼブを定期的に散布することで、防除が可能と考えられます。

表1. 試験Ⅰの試験内容

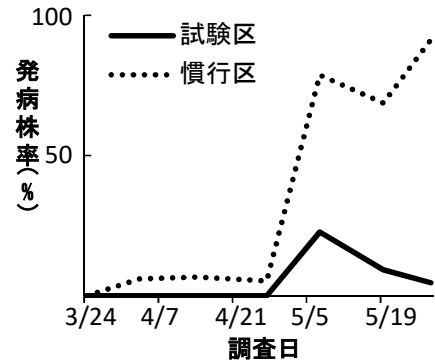
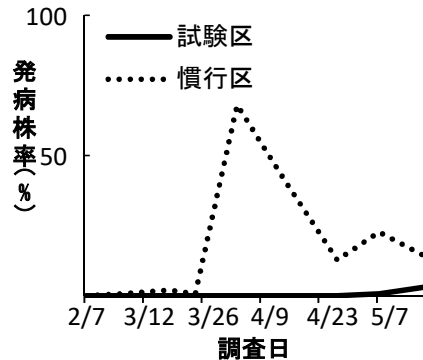
	12月			3月			4月			5月
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
試験区	A			B		C				
慣行区	D						A	E	F	

表2. 試験Ⅱの試験内容

	1月			2月			3月			4月			5月		
	中	下	上	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
試験区				A			B			C					
慣行区	A			F			G	E							E

表3. 試験に使用した農薬

マンゼブ含有農薬	
A	リドミルゴールドMZ
B	カンパネラ水和剤
C	テーク水和剤
D	ベンコゼブ
マンゼブ非含有農薬	
E	メジャーフロアブル
F	アミスター20フロアブル
G	ザンプロDMフロアブル



## 3. 期待される効果

晩春から初夏に収穫する白ネギ作型において、保護雑菌剤マンゼブを含む農薬を散布することで、ネギベと病に対する防除効果が認められ、白ネギの出荷量を安定させることができます。

## 4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

TEL：0974-28-2078

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8